

1993.2
第13号

博物館だより

大津市歴史博物館



—江戸が生んだ世界の絵師—

大北斎展を開催

3月2日(火)～4月11日(日)

大津市歴史博物館では、平成五年三月二日(火)から四月十一日(日)まで、「江戸が生んだ世界の絵師―大北斎展」を開催します。

葛飾北斎(一七六〇～一八四九)は、七十年に及ぶ長い画業を通じ、肉筆画・浮世絵版画・絵本など様々な分野で膨大な作品を残しました。それらは幕末から明治の初めにかけて大量に海外へ流出しましたが、とくにヨーロッパにおいて、ゴッホをはじめとする印象派の画家たちに大きな影響を与えたことはよく知られています。

わが国では、明治二十六年(一八九三)に飯島虚心が著した『葛飾北斎伝』が北斎研究の嚆矢とされますが、本年はそれからちょうど百年にあたります。勝川春朗・依屋宗理・北斎辰政・画狂人北斎・戴斗・為一・画狂老人出などと目まぐるしく画号を変えていった北斎ですが、本展ではそれぞれの時期の作品を洩れなく拾いあげ、展示します。総点数は五四〇点余。なかには富嶽三十六景のように広く知られた作品もあり、またこれまで未紹介のものもあります。とくに、本展のためにイギリス・フランス・アメリカなど海外の美術館やコレクターの所蔵する作品が多数里帰りすることは特筆され、それらをまとめて鑑賞することのできる絶好の機会です。

江戸時代は庶民文化の時代だといわれますが、それはけっして文化レベルの低落を意味するのではなく、それまでとは違った文化の新しい手によって別種の文化が育まれ、成熟したということでしょう。そのことを端的に示めすのが北斎の生きさまであり、作品であるといえます。江戸の生んだ世界の絵師―北斎の優れた芸術を存分に楽しんでいただきたいと思います。

展示作品の概要

五四〇点にのぼる作品のなかから、主なものを紹介しましょう。

弘法大師修法図(表紙写真)

紙本着色 一幅 一五〇・〇×二四〇・〇cm

無款 西新井大師総持寺蔵

画面の左半分を占める巨大な鬼が、眼をむいて一人の僧にいとみかかると、この僧は弘法大師空海、経巻を手に一心に祈る姿である。背景の漆黒の間、大師の着衣の奇怪な装、鬼の手足の筋肉のひきつれ、樹幹に生えた不気味な花、さらには鬼に吠えかかる犬のねじれた姿態など、全てがこの大画面をいつそう怪異なものとしている。奇矯の画家北斎の面目躍如たる絵である。無款だが北斎最晩年の作と考えられ、数少ない宗教的テーマを扱うものとしても貴重であろう。



かしく 岩井半四郎 (個人蔵)

かしく 岩井半四郎

紙本版画 細判一枚

個人蔵

北斎作品のうち最も初期のもので、安永八年(一七七九)八月一日から江戸・中村座で上演された歌舞伎「敵討仇名かしく」に題材をとっている。どちらかというとな例の少ない浮世絵版画のなかで、とくに重要である。当時、北斎はまだ勝川春朗を名乗っていた。

新板近江八景 粟津の晴嵐

紙本版画 中判一枚

葛飾北斎美術館蔵

近江八景の版画といえば歌川(安藤)広重のそれがあまりにも有名だが、北斎もまた作品を残した。当時、近江八景がいかに普遍的な画題であったかがよくわかる。ただ、広重の作品の诗情あふれる画趣に対し、北斎のそれはドライでやや形式的な図様ではある。版元は不明。

富嶽三十六景 山下白雨

紙本版画 大判一枚

ホノルル美術館蔵

「赤富士」の呼称で有名な同シリーズの「凱風快晴」同様、大きく富士の山容を配する図だが、画中に描かれた天候は全く逆である。山頂は白く雪を戴くが、中腹には夏雲がかかり、山麓の大気を雷光が鋭く切り裂いている。赤い山膚も、荒天による黒っぽい陰影をまとう。表題の雨は画面のはるか下方を濡らしており、富士の雄大さが如何なく示される。

以上の作品のほか、パリ国立図書館、大英博物館、ポストン美術館、ピーター・モースコレクションなどに所蔵する国内外の優品をえりすぐって紹介します。



新板近江八景 粟津の晴嵐 (葛飾北斎美術館)



富嶽三十六景 山下白雨 (ホノルル美術館蔵)

収蔵品紹介 ⑫

南滋賀廃寺出土蓮華文方形軒瓦

白鳳時代 縦二二・四 cm 横二四・二 cm

南滋賀廃寺は、大津市南志賀一丁目・二丁目に所在する。京阪電鉄石坂線南滋賀駅の西方約三〇〇mに位置し、南滋賀の集落が営まれている扇状地の扇頂部付近に立地する。標高は約一二一mを測る。

昭和初年以來三期に渡って行われた発掘調査によつて、白鳳期に創建され平安時代末頃まで存続した寺院であることが判つてきた。主要伽藍はいわゆる川原寺式伽藍配置をとるもので、中門を入つて東側に塔、西側に小金堂（西金堂）、中軸線正面に金堂、その背後に講堂を配し、中門からは東西に回廊がのび、塔・小金堂をコの字形に囲んで金堂に取り付き、僧房は講堂の北・東・西の三面に配置されたものである。

この寺院から出土する瓦類は二系統が認められ、一つは川原寺式の複弁蓮華文軒丸瓦および重弧文軒平瓦の系統（A系統）、他の一つは大津北郊地域の寺院跡等から主として出土する蓮華文方形軒瓦を中心とする方形瓦や単弁軒丸瓦の系統（B系統）である。

ここに紹介する蓮華文方形軒瓦は、その瓦当文様が蜘蛛類のサソリに類似していることから俗称として「サソリ瓦」として現在でも呼ばれているものがあり、B系統の瓦類に属する。その瓦は、幅広く突出度が高い周縁のなかに蓮華を側面的に表現した軒瓦と解されている。すなわち中央には背面から見た花卉を、その両側には側面から見た花卉を四重に配している。花卉の蓮子の有無で二種に細別でき、蓮子を有するも

のは中央の三葉の弁に三個二段に六個、左右三葉の弁に各一個を配する。范は内区のみで、周縁は後で貼付しており、細密な格子目叩きで調整する。丸瓦部の横断面形は、回状を呈し瓦当裏面は粗い格子目叩きで調整され、色調は赤褐色で、焼成は軟質である。

屋根への葺き方は、(1)蓮華文方形軒瓦・方形軒平瓦・方形丸瓦や方形平瓦を組み合わせたものと(2)B系統の素文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦・方形軒平瓦・方形丸瓦や方形平瓦など方円交互に葺かれたとする二方法が提示されている。

さて、この瓦は寺院のどの建物に使用されたかは詳らかではないが、単弁系の瓦が複弁系のそれと比較して遺構に近く、深部から出土していることからこの寺院の根本的なものを示唆していると考えられる。

わが国で、この瓦が唯一出土する南滋賀廃寺は、大津京とも深い関わりがあり、その解明には欠かせない資料といえよう。

(吉水眞彦)



蓮華文方形軒瓦

なお、会期中に当館講堂において次の講演会をおこないます。

演題 「北斎—人と作品—」

講師 永田生慈氏（太田記念美術館副館長）

日時 平成五年三月十三日（土）

定員 一三〇名

受講御希望の方は、ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ、当館までお申込みください。申込みの切りは二月二十七日（土）です。なお、お申込み多数の場合は抽選いたします。

博物館の催しもの

博物館日記抄

11月30日
1月30日

■展覧会

◇「大北斎展」

(期間) 三月二日(日)～四月十一日(日)

◇「伝説の歌人―小野小町」

(期間) 五月一日(土)～五月三十日(日)

◇「琵琶湖の船」

(期間) 七月二十八日(水)～九月五日(日)

■講演会

◇「伝説の歌人―小野小町」展記念講演会

(題名) 能・歌舞伎に見る小野小町

(日時) 五月十五日(土)

午後二時三〇分～三時

(講師) 榎藤芳一(演劇評論家)

■講座(土曜講座)

◇(題名) 古文書講座

(日時) 四月十七日、二十四日

(講師) 樋爪 修(本館学芸員)

◇(題名) 小野小町展展示品解説

(日時) 五月二十二日

(講師) 中森 洋(本館学芸員)

*開始時間はいずれも午後一時三〇分

■講座(親子の体験講座)

◇(題名) 大津の歴史と文化を学ぼう

(日時) 三月十三日、四月十日、五月八日

*開始時間はいずれも午前十時

詳しくは市歴史博物館へ

11月30日 西教寺展調査(伊賀方面、12月2日まで)

12月1日 真里谷衛氏(京都新聞社)、大石学区自治連

3日 第4回歴史博物館企画委員会開く、今日から、信長・戦国・近江」展の資料返却はじめる(11日まで)

8日 第23回大津市心身障害児童作品展開かれる(13日まで)

10日 県消防学校生来館

11日 安土城考古博物館資料調査

12日 第55回土曜講座「仏像の見方I」(岩田茂樹学芸員)、上田上学区青少年育成学区民会議

14日 七一名、広島県立国泰寺高校教員各来館

17日 林屋辰三郎館顧問、日本学士院会員に選任される、大津営林署の開庁式が行われる

15日 第13回運営会議開く

17日 中国瀋陽市科学技術協会来館

19日 親子歴史講座「大津の歴史と文化を学ぶ、第56回土曜講座「仏像の見方II」(岩田茂樹学芸員、いっせい除草、伊藤幸雄氏(浜松市博物館)来館

22日 天理図書館資料調査、屋外洗淨

23日 学芸会議

平成5年 臨時開館(3日も)、山の神(平津)行事調

1月2日 査

5日 山の神(南志賀)行事調査

6日 開館、第14回運営会議、山の神(滋賀里)行事調査

8日 館内会議

9日 服部新七家所蔵資料調査(藤尾)、山の神(真野佐川)行事調査、第57回土曜講座「正月・春の民俗行事」(山崎和宏学芸員)、親子歴史講座「大津の歴史と文化を学ぶ―技術の考古学」

10日 蛇(尾花川)行事調査

13日 小・中学校書き初め展開かれる(19日まで)、中国牡丹江市研修生、大森弥氏(東京大学)、江田正和氏(宮崎市歴史文化館)、建設省近畿地方建設局各事務所長ら来館

14日 綱打ちまつり(長等神社)調査、蛇まつり(尾花川)調査

15日 お弓神事(山中、樹下神社)調査

17日 サンヤレまつり(真野)調査

20日 第7回歴史博物館協議会を開催(講堂)、真野公民館・県老人大学7期生各来館

21日 大阪府立中之島図書館資料調査、加藤浩二氏(産経新聞社)来館

22日 平成5年度予算内示、館内会議、三上四郎氏(関蟬丸神社)、西田弘氏来館

23日 第58回土曜講座「正月・春の民俗行事」(山崎和宏学芸員)、ふるさと作品展開催される(27日まで)

24日 杉立繁雄・竹中弘の両氏来館

28日 斎藤鑑三・岡本義生・小野真弓の各氏(朝日新聞社)来館

30日 県七市議会事務局研修会開かれる。

博物館だより 第13号

発行日 平成五年二月二十三日

編集所 大津市歴史博物館

発行所 大津市御陵町二二

大津市歴史博物館
電話(〇七五)二二二〇〇代